



人気の川中島白鳳や川中島白桃をはじめ、あかつき、なつっこを栽培している

農業の先生は、義父をはじめ地域の生産者の皆さんは、桃農園を代々受け継ぐ兼業農家。さらに、農業委員の方の仲介で離農する生産者の桃畠も借りることができます。

「農業の先生は、義父をはじめ地域の生産者の皆さんは、桃農園を代々受け継ぐ兼業農家。さらに、農業委員の方の仲介で離農する生産者の桃畠も借りることができます」。

農業のこだわりを聞いてみると、育てていて

2023年には、篠ノ井高校サッカー部の外部コーチとして就任。プロサッカー選手としての経験を活かし、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながらプレーする喜びを感じてもらえる指導を行っています。

「農業と一緒にですね。桃の木にも個性があるので、生徒を育てるのも果物を育てるのも同じではないでしょうか。そういう意味でも、ともに切磋琢磨して成長していく

## PROFILE

1983年生まれ。埼玉県さいたま市出身。大学卒業後、ベガルタ仙台、社会人チームを経て2009年にAC長野パルセイロに入団。ボランチの要として攻守にわたり躍動。2015年に惜しまれながら引退。翌年からクラブスタッフとしてスクールコーチや営業職を務める。2022年に退職後は、新規就農者として「おはしふあーむ」を立ち上げる。現在は、篠ノ井高校サッカー部外部コーチや「むすびの森ワーク稻葉」の職業指導員、健康体操講師、TVのコメンターなどオールラウンドに活躍している。

## DATA

おはしふあーむ  
[創立] 2022年9月

[事業内容] 桃(あかつき、なつっこ、川中島白鳳、川中島白桃、黄金桃)、ワッサー(スイートリッチ)、米(コシヒカリ)、松代一本ねぎなどを栽培

[所在地] 長野市若穂牛島746 TEL 080-2044-3554

[SNS] (Instagram)ohashi19830701  
(Facebook)<https://www.facebook.com/yoshitaka.ohashi>

大橋さんが、AC長野パルセイロのクラブスタッフを務めた後、農業の道へ進んだのは2022年のことでした。長野で未知の分野を開拓したいと考えていた大橋さんは、長野の魅力ってなんだろうと改めて考えたといいます。

「長野に初めて来たときに感動したのは、果物や野菜のおいしさです。クラブスタッフ時代には、JAグリーン長野さんとAC長野パルセイロのコラボ企画でパルセイロ農園が実施され、農業体験をするなかで土に触れる喜び、生産者さんと共に作る達成感を味わいました。おいしい果物や野菜がどうやってできるのかを知り、自分も実際に作りたいと思うようになったのです」。

## 農業の指導は

## 若穂地区の生産者の皆さん

農業の先生は、義父をはじめ地域の生産者の皆さんは、桃農園を代々受け継ぐ兼業農家。さらに、農業委員の方の仲介で離農する生産者の桃畠も借りることができます

た。

## 生産者が元気だと

## 作物も元気に育つ

「生産者が儲かる仕組みを作れば、事業はそのまま継続できます。農業はこの先もなくならないものですし、衣食住の中でも大切なものです。なくてはならないものだから、仲間と協力しながら農業の可能性を広げていきたいですね」。

後継者難が課題といわれる農業ですが、若穂地区では若い方の就農も増えていることです。仲間と一緒に気軽におしゃべりしながら情報交換会も行っており、地域の飲食店とのコラボ企画や長野駅前でのマルシェに出店するなど、地域活性化にも結びついています。

「生産者が儲かる仕組みを作れば、事業はそのまま継続できます。農業はこの先もなくならないものですし、衣食住の中でも大切なものです。なくてはならないものだから、仲間と協力しながら農業の可能性を広げていきたいですね」。

後継者難が課題といわれる農業ですが、若穂地区では若い方の就農も増えていることです。仲間と一緒に気軽におしゃべりしながら情報交換会も行っており、地域の飲食店とのコラボ企画や長野駅前でのマルシェに出店するなど、地域活性化にも結びついています。

「生産者が儲かる仕組みを作れば、事業はそのまま継続できます。農業はこの先もなくならないものですし、衣食住の中でも大切なものです。なくてはならないものだから、仲間と協力しながら農業の可能性を広げていきたいですね」。

後継者難が課題といわれる農業ですが、若穂地区では若い方の就農も増えていることです。仲間と一緒に気軽におしゃべりしながら情報交換会も行っており、地域の飲食店とのコラボ企画や長野駅前でのマルシェに出店するなど、地域活性化にも結びついています。

「生産者が儲かる仕組みを作れば、事業はそのまま継続できます。農業はこの先もなくならないものですし、衣食住の中でも大切なものです。なくてはならないものだから、仲間と協力しながら農業の可能性を広げていきたいですね」。



昨年夏ごろの様子。収穫した桃は糖度が高く好評だった

る人が元気であることが一番だと思います。

「生産者が健康で元気だと、その活力が

作物にも伝わる気がします。僕も日々、桃

の木から元気をもらっています。農業を始

めてまだ3年ですが、これまで培ってきた

経験や知識を活かして農業の価値を高め、

長野と新規就農者を結びつける架け橋的

な存在になればと考えています」。

今、時期は剪定作業が中心で、春の開花、結実を経て7月末頃から収穫・出荷が始まります。栽培している品種は、あかつき、なつっこ、川中島白鳳、川中島白桃、黄金桃の5種類。2年前からは桃とネクタリンを掛け合わせた信州生まれのワッサーも加わりました。

## 農業の世界へ転身

## プロサッカーの世界から

長野市街地から南東へ8kmほどの位置に広がる若穂地区は、りんごなどの果樹を中心に豊かな農業の歴史が息づく中山間地です。今年2月下旬、元プロサッカー選手の大橋良隆さんが園主を務める「おはしふあーむ」の桃畠を訪れました。遠く飯縄や戸隠、妙高、斑尾と開放感あふれる絶景を望むことができる畠は、陽当たりが良く、高品質な果樹が育つ好条件に恵まれています。

AC長野パルセイロでボランチとして活躍した大橋良隆さんが、3年前から新規就農者として新たなチャレンジをしています。栽培しているのは、桃や米、野菜などで、直販やJAに出荷する一方、SNSを使い長野の野菜や果物のおいしさを発信しています。「農業って楽しいですよ」と、笑顔で話す大橋さんがさらに目標とするのは、農業に興味をもつてもらえるよう発信し、農業の価値を高め農業に関わる人を増やしながら、長野の魅力を伝えていくことです。



輝くあの人インタビュー

# とくとくきらっとうひかる

おはしふあーむ園主  
大橋 良隆さん

長野市のおいしい野菜や果物を県外へ  
儲かる農業で魅力を発信する